知恩報徳

令和７年度 朝礼（4/28）　校長の話

おはようございます。

今日の四字熟語は「知恩報徳」です。受けた恩に感謝をし、その恩に報いる、恩を返すという意味です。皆さんは恩を感じるような気持ちになったことはありますか。おそらくだれもが経験しているのではないでしょうか。

身近な例を考えてみましょう。今、私はここに存在しています。それは、命があるからです。この一つの命が生まれるためには、父親と母親の二人の命が必要です。さらに、その父親、母親の命はその父親と母親、つまり私にとっての祖父や祖母の命が必要です。ここまで合計すると、私一つの命が生まれるまでに、六人の命が必要だったわけです。そのどれ一つ欠けても今の私は存在しません。そう考えると自分の命を授けて下さったご先祖様に自然と感謝の気持ちがわいてくるのではないでしょうか。ちなみに十代さかのぼると何人になるか。計算するとなんと 1024 人にもなります。自分が今を生きるためには、これだけ多くの命を背負っているわけですね。すべての先祖に思わず手を合わせたくなるような気持ちになります。この気持ちが恩を感じるということです。

ところが、その大事な命が、自然災害の前では危険にさらされることがあります。これから命と恩に関連した一つのお話を紹介したいと思います。

1890 年、今から 135 年も前のこと、一艘の船がトルコの港を離れました。船の名はエルトゥールル号。乗組員は 600 人いました。船の目的地は日本です。当時はトルコと言わずオスマン帝国と言いましたが、かつて日本の天皇がオスマン帝国の皇帝に勲章を贈った、そのお礼をするために、立派な船を仕立て、日本に向かったわけです。

さまざまな困難の末、エルトゥールル号は横浜の港に着きました。日本では彼らの到着を大歓迎し、華やかなパレードも開かれたそうです。やがて、目的を果たしたエルトゥールル号は、祖国に向かって日本を離れました。

ところが、その帰りのことです。運が悪いことに、大きな台風が来て、エルトゥールル号を襲いました。船は波にもまれ、右へ左へと揺さぶられます。岩に叩きつけられ、ギシギシという音が起こったあと、大轟音とともに船は真っ二つに折れて沈み始ました。夜の 9 時半ごろだといいます。船員たちは冷たい海に放り出されました。その場所は、和歌山県の大島村という小さな村の近くでした。乗組員たちは、わずかに光る灯台の明かりを目当てに、必死に泳いだといいます。

事故を知った村の人たちは次々と灯台のもとへ集まりました。そして、この見知らぬ外国の人達を介抱し、薬を与えたり、傷に包帯を巻いたり、食事をあげたりしました。海水のため凍るように冷えた体を、自らも裸になって温めたという村人もいたそうです。そのおかげで 600 人のうち 69 人のトルコ人たちが命を取り留めることができました。一方、500 名近くの方々が海の藻屑と消え、見つかったご遺体は村人たちの手で手厚く埋葬されたといいます。

トルコの人たちは、何の関係もない自分たちを分け隔てなく親身になって世話してくれた日本人に対し、涙を流して喜びました。「なんて心の広い人たちなんだろう。」そんな思いを抱いて無事に本国へ帰ったといいます。まさに恩を感じた出来事でした。

話はここで終わりません。時が過ぎ、それから約 100 年後の 1980 年のことです。中東ではイランとイラクが戦争をしていました。互いにミサイルを撃ち込むような状況が毎日続きます。そんなイランに

は、日本人で会社に勤めている人たちも大勢いました。彼らはいつなんどき被害にあうかわからない危険な状態でした。

そんなある日、イランの大統領が恐ろしい命令を下しました。「今から 48 時間後、イラン上空を飛ぶすべての飛行機はミサイル攻撃する。」というのです。その時点で 200 名を超える日本人がイランに取り残されていました。彼らには帰る手段がありません。48 時間以内に飛行機が飛び立たなければ、その後、飛行機を飛ばしても撃墜され、二度と日本の地を踏むことができないかもしれない、万事休すとなったその時、なんと手を差し伸べてくれたのはトルコの人たちでした。彼らは言いました。「百年前、エルトゥールル号を救ってくれた日本人に、今こそご恩返しをしたいと思います。」そう言って彼らも命をかけて救援機を飛ばし、時間ぎりぎりで、200 名の日本人の命は救われたのでした。

100 年の間、恩を忘れなかったトルコの人たち。皆さんはどう思いますか。恩は国を超え、時間を超え、人を超えてつながる、まるで切れない糸のようです。皆さんもこれから、絶体絶命のピンチのときに誰かに助けてもらい、それを心深く恩に感じ、いつか恩返しをしたいという思いにとらわれる日がくるかもしれません。いいえ、今でも本当は多くの恩のなかで生かされているのだと思います。その思いを忘れない謙虚な気持ちをいつまでももちつづけたいと思います。

さて、「恩返し」という言葉と、もう一つ、「恩送り」という言葉があります。親切にしてくれた人に直接返すのが「恩返し」ですが、もし相手がいなかったら別の人に親切をしてあげる、これを「恩送り」といいます。恩を受けた人がバトンを回すように次々と恩を送ることで、世の中がどんどん良くなっていくという考え方です。ボランティア活動もその一つかもしれません。誰かの役に立つことで、さらにその誰かが別の人にお返しをしていく、そういう形で恩を送ると、世の中全体が良くなっていきます。

この機会に「知恩報徳」について考えてみてください。先生の話は以上です。